特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYY 広報誌

2019.6.25 発行 ￥200

やもちき通信

193号

6月20日現在
子ども会員：204人
正　会　員　：　36人
賛 助 会 員 ：226人
31団体

BOYS AND GIRLS be AMBITIOUS!!

チャレンジキッズ大活躍!!

も　く　じ

しりたがり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02
おとな塾・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・03
パパインタビュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・04
田んぼでがんぼ/Open the Door・・・・・・・・05
特集～ともだちや～・・・・・・・・・・・・・・・06～07
特集～デイキャンプ～・・・・・・・・・・・・・08～09
あかりの Another World・・・・・・・・・・・・10～12

やまもとかずこの知りたがりやトーク

「そろそろ梅雨入り？」「紫陽花がキレイじゃね」「週末にホタル観にいったんよ！」…そう6月です。気温の変化が激しくて、衣服の調節が大変な今日この頃、みなさんいかがお過ごしですか？

今回は、ちょっと聞いてよ！系の話題。
先日、久しぶりに長男の幼稚園時代のママ友に会いに行ってきました。その彼女、私がこれまでの人生で出会った中の best3？に入るほど面白い人で、一緒にいると笑いが絶えることがないほどです。ところが、数年前からパーキンソン病を患い、あんまり調子がよくないというので、急きょ、顔を見に行くことにしたというわけです。

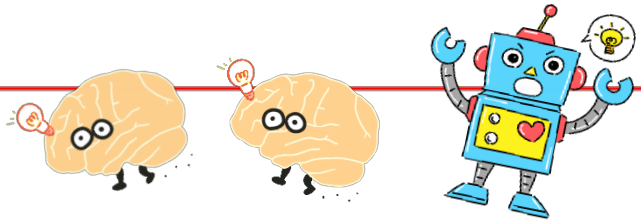
パーキンソン病というのは、脳内の神経伝達物質の1つであるドーパミンが不足し、手足のふるえ、ぎこちない動作、小刻みの歩行などの症状があらわれる進行性の病気で、原因はまだはっきり分かっていないそうです。発症率は、10 万人あたりおよそ100～150 人で、50～60 代の女性に多いとか。残念ながら、根本的な治療法もまだないようです。

前回の訪問から1年あまり、どちらかといえば肥満気味だった体型はまるで別人のよう。聞けば15kg も体重が減ったのだとか。また薬の服用も、1日 3～4 回だったのが、今では 3 時間おきに。それでもまだ、月の半分くらいは、大手ショッピングモールでパート勤務を続けているといいます。その勤務先で、少し前に雇用を継続するかどうかという面接があったそうです。1年ごとのパート勤務契約、いつものように面接を受けに行くと、上司から、障害者手帳をもらってきたら、雇用を継続すると言われたらしい。会社側にしてみれば、障害者を一定の割合で雇用するのは義務、丁度良い機会だくらいの軽い気持ちだったのだと思います。一方、彼女の方は、「なんで、会社にそこまで言われんといけんのん？手帳をもらうかどうかは自分が決めることじゃろ。そんなこと言われてまで働かんでもええ、やめよう！」と思ったそうで、目に悔し涙を浮かべながら、私にそう話しました。しかし同僚の人たちから、「やめんとって！」と強く慰留され(上にもいろいろ掛け合ってくれたそうで)、もうちょっとだけ働いてみることに決めたそうです。常々、他人に迷惑をかけないよう、気を配る人なので、相当悩んだことでしょう。彼女の人柄を理解し、支えてくれた周囲の人々に感謝！

彼女の話を聞きながら、頭に浮かんだのは今話題のロスジェネ世代のこと。バブル崩壊後、就職難で、思うような仕事に就けず、非正規の割合も高い。給与所得も他世代に比べると今一つで、嫌な思いをいっぱいしてきたことでしょう。人手不足で二進も三進もいかなくなり、将来的な扶助費の膨張に対する危機感が現実味を帯びてきた今になって、政府はやっと重い腰を上げるようです。なんか腹が立つ！何も考えてこなかった自分も含めて…。生き苦しくて辛かったよね！しんどかったでしょう！…でもそんな彼らに、敢えて、彼女の“できることは何でも精一杯やってやる！”という信念を伝えたいと思います。まだまだ先は長い！一緒にがんばろっ！

Nextおとな塾

みんなの夢アイディアコンテスト ～この 10 年を振り返って～



講　師：山路恵司さん
（みんなの夢アイディアコンテスト実行委員長）

【日　時】7 月 16 日(火)19:30～21:00
【場　所】YYY 事務所
【参加費】1200 円(資料・おやつ付)

6 月 11 日(火)19：30～YYY 事務所 参加者 13 名

喜びを醸す蔵

～酒蔵なのにホスピタルクラウン編～

講師：中野光次郎さん
（水龍 4 代目元落語家）

皆さんは、“ホスピタルクラウン”ってご存じですか？長期入院している子どもたちを慰問する“ピエロ”。その活動を、以前おとな塾で酒作りについてお話しいただいた呉の地酒〝水龍〟4 代目代表、中野光次郎さんに、お話して頂きました。

“水龍 中野光次郎本店”では、代々蔵を継ぐ者は家庭裁判所へ行き、戸籍謄本から改名する習わしで、跡取りとして育てられた 4 代目も、その名を継いだそうです。そのため、遺産の事や親族のトラブルを話し合う場に同席させられることも。そんな特殊な環境のせいか、「自分は人とどこか違う」とストレスが溜まり、対人関係に悩むヘビーな子ども時代だったそう。

成長するにつれ、マニアック？な映画から影響を受け、「人と違う事をアイデンティティにする。」と自分の宿命を前向きに受け入れた光次郎青年。全国に 1 つしかない東京農業大学“醸造学科”で発酵についてとことん学ぶ。この学科には、味噌屋、パン屋、酒屋、ラーメン屋など『発酵に関する人たち』がたくさん集まり同士を得たことで「自分ひとりではない」と思えたそうです。

そんな大学時代、映画作りにハマり、3 年生の夏にクラウンを題材に映画を撮るため、クラウンスクールに通ったそう。その奥深さにハマった頃、先輩に誘われホスピタルクラウンのボランティアを始めたそうです。

中世ヨーロッパでは、クラウンは、身体障がい者や知的障がい者を救済するため、王様が引き取って芸を教え込み、宮中道化師として、王様やお客様の前で芸をさせていたそう。

ホスピタルクラウンは、“笑う”事で自然治癒を進めていく目的で、アメリカでは熱心に取り組まれているそうです。日本では、感染症のリスク等で取り入れる病院は少ないですが、岡山にあるホスピタルクラウン協会が受け入れ病院を紹介してくれるんですって。病院では衛生面には最新の注意を払い、道具の消毒はもちろん、物が床に落ちないように紐をつける、化粧も子どもを怖がらせず、非日常感を味わえる程度にし、遠くから音を出しながら少しずつ近づくなど、知識と技術が必要なのだとか。もちろん子どもの病状も把握するため看護師さんとの打ち合わせも大切だそうです。

基本は、ボケ担当のオーグストクラウン(いたずら好きでドタバタと喜劇的な動きのキャラ)と突っ込み担当のホワイトクラウン(威張っていて気位が高いキャラ)で活動するそうです。基本はしゃべらないそうで、言葉を用いない方が伝わるという事も実感できたそうですよ。

「この活動は、長く続ければ続けるほどつらくなりました。」と光次郎さん。再度病院を訪れた時、顔が見えない理由が退院ばかりではない悲しい現実。それ以上に元気を届けるパワーを出すのは並大抵ではできないそうです。『人を楽しませる気持ち、面白く見せる技術、強靭なパワー』が必要なホスピタルクラウンの活動。やはり続けることはできなかったそうです。

その後の光次郎さん、東京学生映画祭なるもので、崔洋一氏、知史靖氏と対談したこともあるのだとか。映画の世界に誘われたそうですが、それを断って酒造りの道を選んだそうです。その酒造りも今年の冬で 149 回目。予約すれば蔵を見学できるツアーもあるそうですよ！

いろんな顔を持つ中野光次郎さんのお酒。呉の水龍を一度飲んでみてくださいね！（山本さなえ）

イクメンなんて呼ばないで笑

パパインタビュー ～Vol.3～

イクメンなんてもう古い!?そんな言葉で呼ばなくたって、日々子育てを楽しんでるパパ、いっぱいいます。YYY のまわりでは、数年前からパパ急増中。そこで、まわりのパパにスポットをあてる、パパインタビュー。

今月は、堀越さん。初心者でも楽しめるバー、「Shot Bar Bit」の店主。日夜逆転生活?お子さんとどう関わっているの?しゃべっていただきました。

―お仕事はなんですか?

ミニ四レーサー(笑) ボクシング選手みたいに、本業だけじゃ食べて行かれんけん副業しよるんですよ(笑)

―家でご飯作りますか? 得意な料理は?

作らないですね。ペペロンチーノは作れますよ。自分が食べたい物しか作らんのんで。昔好きで、よう作りよっただけですね。

―家事することありますか?

掃除はしません(笑) 家のことほとんどしないですね。下の子のお迎えぐらいですね。

―仕事柄、昼は寝てますか?

寝てないですよ(笑) 最近は帰ってすぐ寝ます。午前中のうちには起きますね。起きたら競馬ですかね～。毎日あるんですよ、地方競馬。ケータイでできます。おもしろいんですよ。今日から大井競馬が始まるんですよ。JRA 以外が全部地方競馬っていう言い方なんで。大井も地方競馬です。その日の馬場を見て、前残りなのか、差しが決まるんか見て、脚質と騎手で選びます。当たるかもしれない…のも楽しいし、馬の走りや展開見るのも楽しい。

―それがリフレッシュ方法?

趣味はミニ四駆と地方競馬。リフレッシュっていうか…毎日自由なんで(笑) 自由すぎて困ることはないですね。メンタルをやられるってことがないです。考えたってしようがないことはしょうがないんですよね。たとえば、奥さんにも言うんですけど、怒ったりして、腹が立つ、イライラする、それをして一個でも得することがあったら、イライラしたらいいんじゃない?って(笑) ケンカはしません。ケンカって、両方が怒るからケンカなんですけど、僕が怒られて、終わりですよ(笑)

―じゃあケンカ全然なし?

13年一緒にいますけど、一回だけ。娘が夏休みの宿題で、ポイ捨て禁止のテーマで描いた絵のはしっこに、小さい人物を描いてたんですけど、「こんなんじゃ伝わらん」って言って奥さんが消させよったんですよ。娘泣きながら消しよって。子どもがええんじゃけん、ええじゃんって思ったんですけど、奥さん元美術部で(笑) それで僕「そんなん描くな!」って捨てた。捨てたら困るの娘なんですけどね(笑) 上の娘が、奥さんによう怒られるんですよ～。家のこともようするし、気の毒なんですけど、怒られよる時に、僕の方見て変顔するんですよ(笑) 頼むけん朝から怒られんとってや～って言ったら「あれ怒られてないけん、注意されとるんじゃけん!」って(笑)

―やっぱり最初の子は目に入れても痛くない(笑)?

世間一般の可愛い可愛いって感じではないと思います。

友だち?なんだろ。ゆめタウン行こうや、メダルゲームしようやって誘ったりはします。キャンプは年一で行きます。一昨年までは長女と2人で行ってました。奥さんアウトドアがあんまり好きじゃなくて。でも去年初めて来たら楽しかったみたいで。今年もみんなで行く予定にしてます。必ず近くにお風呂がある所にしか行かんです、キャンプなんですけど(笑)

―子どもとの関わりの中で楽しいことは?

楽しいというか、最近長女が、インパクトドライバーを使って組み立て家具を作れるようになったのが、嬉しいですかね(笑)

(インタビュアーかずこ)

田んぼでがんぼ

お茶碗1杯のご飯＝おたまじゃくし2匹!?

こんにちは！「黒瀬みのり農園」の週末ファーマーの町田です。6月1・2日の土日に、大勢の方にお越しいただき、にぎやかに楽しく田植えができました！昨年7月に被災したときは、翌年の田植えは諦めかけていたのに。たくさんの方々の手助けや後押し(＋私の諦めの悪い性格)のおかげです♪

さてさて、田植えが近づいて田んぼに水を入れ始めると、一気に生きものたちのにぎわいが増えてきます。中でもこの時期目につくのが、ピョンピョン跳ねまわるカエルたち。(我が農園には、絶滅が危惧される種類も含め、5種類のカエルが生活しています。)

実は私、毎年6月末頃に農園のおたまじゃくしの数を数えておりまして、その数およそ2万匹！(もちろん 1 匹ずつ数えている…わけではありません…調査して推計しています。) 私が田んぼを耕して稲を育てることで、こんなにたくさんのおたまじゃくしが田んぼに産まれて育ちます (๑･`д･´)ﾄﾞﾔｯ(ちなみに、お茶碗1杯のご飯に必要な田んぼの面積に、2匹くらいのおたまじゃくしが育っていることになります。)

「田んぼ」は、人間にとってお米をとるために稲を育てる場所ですが、いろんな生きものたちにとって大切な生活の場所でもあります。稲が育つと同時に、本当にたくさんの生きものたちが田んぼに暮らしています。そのことを実感するためにも、ぜひ一度農園に遊びにいらしてください！(7月には「夏の田んぼ体験会」を開催します。詳細は農園 Facebook ページに掲載しますので、ご確認ください m(_ _)m)

Open the Door

「レオーニと子どもの世界」

著：小林いづみ

ひろしま美術館で開催されていた「みんなのレオ・レオーニ展」を見てきました。オランダ生まれ、アメリカでグラフィックデザイナー・絵本作家として活躍したレオ・レオーニの作品では、教科書にも掲載されている『スイミー』(谷川俊太郎訳、好学社)が有名ですが、私がいちばん好きなのは、彼の最初の絵本、『あおくんときいろちゃん』(藤田圭雄訳　至光社)です。ちぎり紙の青い丸があおちゃん、黄色い丸がきいろちゃん。ある日、きいろちゃんと遊びたくなったあおちゃんは、きいろちゃんのおうちに行ってみますが、きいろちゃんはいません。あちこちさがして、とうとう街角でばったり出会えた2人は、「うれしくて　もううれしくて　うれしくて　とうとうみどりに」なってしまいます！　頭の固くなった大人になってから、初めてこの本に出会った私は、あおくん、きいろちゃん、と言われても、どうしてもただのちぎり紙にしか見えず、最初はとまどったものでした。そんな私が楽しめるようになったのは、幼い子どもたちと一緒にこの絵本を読む体験を重ねたからです。レオーニが、孫たちにせがまれて、手近な紙に次々に色を付けて創りだしたというこの絵本は、幼い子の遊びそのもので、のびやかな楽しさにあふれ、子どもたちは、無理なくあおくんときいろちゃんの世界に入っていくのです。　積み木の汽車が動き出したり、段ボールが怪獣になったり…。子どもたちは豊かな想像力を持っていて、現実と空想の世界を自由に行き来しながら遊びます。ところが、テレビやスマホなど映像メディアの強い影響のもとで育つ今の子どもたちは、充分に想像力が育たず、あるものを別のものに見立てて遊ぶ見立て遊びや、ごっこ遊びができなくなってきていると聞きました。動かない、全部の場面を見せてくれない、そして、時には、白黒だったり、地味だったり、単純だったりする絵本の世界は、子どもの想像力を育て、豊かなものにしてくれます。いろいろなメディアがあふれている時代だからこその、絵本の持つ力を改めて感じました。

～こころゆさぶる文化体験事業 2019～

6 月 21 日(金)ビューポートくれ大ホール 参加者 270 人

ともだちや 楽しく 上演終了！

あいつもともだち

今回の会場は…

ロビーには、手作りキツネ帽子・浮き輪や提灯・ヘルメット、なりきり撮影コーナー出現!!「えぇ～、これ被っていいん!?」と手に取り被ると、お母さんが尽かさず写真をパチリ!!つぎつぎ子どもたちがやってきて、記念撮影していましたよ。(*^_^*)

ホールに入れば、手をつないだ“ともだちガーランド”と“お願いごとの絵馬”が、みんなをお出迎え。「あぁ～、これ○○ちゃんが書いたやつ～。」と、教えてくれる子。「遅くなってごめんなさ～い。」と、書いてきた絵馬を飾る子たち。それぞれの思いがこもった会場作りとなりました。

いよいよ開場!! もぎりは、小さな子ども達の憧れの中高生たち。その先には、「ともだちや」YouTube の CM が流れる。デイキャンプの時に取ったアンケート集計も!! 懐かしのけん玉やぶんぶんゴマなどを飾っておくと、待ち時間に遊ぶ子どもも…。保育園で遊んだとかで、上手にブンブンしていましたよ。

みんなの感想 ～アンケートより～

3 人で演じていたなんて、信じられないくらいパワフルで、とてもおもしろかったです。

こんなに近くで観れる機会はなかなかないので、子どもに本物を見せてやれたと思います。ありがとうございました。(おとな)

原作を少し読んでいましたが、それ以上におもしろかったです!大人も子どもも楽しめる工夫が沢山でした! (おとな)

大人も子どもも、楽しくて、何だか心があったかくなるお芝居でした。素敵な時間をありがとうございました!(おとな)

汗をかくほど、一生懸命やっていた。とてもおもしろかったです。(小 3･小 5)

友達の大切さ･意味がとても分かりやすかったです。次もあったら見に行きたいです。(小 6)

客席はチビッ子からおじいちゃんおばあちゃんまで、270名でいっぱいに!! 舞台中央に大きな一本の木、そこから木の精が出てきてお芝居は始まった。始まるや否や、子ども達は舞台に釘付け!! キツネとオオカミがトランプで神経衰弱をする場面では、キツネがカードを当てるたびに拍手が起こり、なかなか当てられないオオカミに「そこ違うよ! あっち!」と応援する声が届いたり、舞台と会場が一体化!! 子ども達の反応の良さに、心がほっこりしました。原作は絵本『ともだちや』シリーズ。お誘いした時の反応も「知ってる、知ってる」と上々。ポスターやチラシを見て来て下さる方が多かった。でも、絵本で内容を知っていても、読むのと舞台を観るのとでは、感じ方が違ったのでは…。役者さん同士の間合いや息遣いを身体で感じる。これが生の舞台鑑賞をする醍醐味。本当の「ともだち」って何!? その答え、みんな見つけた!? 帰り道や食卓で、どんな話が出たかな!? また聞かせてくださいね。(岡本)

新年度第一弾の舞台を大盛況で終了しました。

今年1月、作品選びをしている時のこと、原作が絵本でシリーズ化されているってことは人気ある？劇団からの資料で舞台がカラフルで楽しそうと思いつつ…。「えーともだちやです。ともだち1時間100円」というセリフに、ともだちをお金で買う？それってどうなん？ちょっと嫌かもと悩んじゃいました。絵本を何冊か読んでみるとキツネが本気でともだちをつくりたいと考えついたのが“ともだちや”だったというストーリーに納得！この作品を企画することにしました。

スタッフで話し合いを重ねる内に「ともだちって大人になっても永遠の課題だよね。」「ともだちって何？」「どうやって作った？」という話からママ友トラブル、大学生の孤食やレンタルフレンド・いじめ…社会問題まで掘り下げることができました。小学校のPTA役員さん宛に、舞台を観て欲しいというだけでなく、人と人との距離の取り方やコミュニケーションについて考えるきっかけとなる作品だという手紙を書きました。

直前の「デイキャンプ」ではあそびアンケート・願い事絵馬作りなどのアピール作戦を決行。いつもなかなか人が入らなくて悩みの種の児童向け作品ですが、今回は会場いっぱいの子ども達が食い入るように観ている姿や、舞台に向かって大きな声をかけている様子が印象的でうれしかったです。(福田聖子)

最後は、「盛り上げ隊」になったおや子、小学生が演者にプレゼント渡し★

天気の神様は私たちの味方をしてくれたよ～

今回のテーマは『ともだち作り レッツチャレンジ』。今日初めて出会った人と何人ぐらい話せるか。かまど、カレー作り、フルポン作り、レクレーションを通してみんなから自然に声が出ていたのを目撃した。かまどでお父さん達が薪を飯ごうに当てて「できてきたら振動がビリビリするそうですよ」と話していると、子どもがやってきて、「2 番目のやつがグツグツいってるよ」。お父さん「ほんとじゃぁ」「どうしゃぁええんじゃろ～↑↑」一緒に興奮したらもうすっかりお知り合い。またどこかで出会ったら「あん時の！」と通じ合えたらサイコーと思った。

もう一つ、レクの時、高校生が進行をしていたところに小学生スタッフ女子 2 人組が「私にもマイクかして」と進行を始めた。高校生はすぐサポートに回って場を盛り上げていた。「やりたい」を自然に応援できる高校生スタッフ、「やりたい」をすぐ行動に移す小学生たち、テーマの『レッツチャレンジ』を自然にやっている姿に感動した。

SNS とかでも簡単に会話できるけど、ダメダメそんなん。やっぱり同じ場に集まって顔を突き合わせてなんだかんだワイワイやるのは色んな化学反応が起こって面白い。その場でその反応を感じることができて幸せだ、と思った。(ウエダ)

子どもスタッフより

準備が大変だったり、まきの割り方などを説明するのが難しかった。けど、誰もケガすることなく、みんな楽しくなっていたので良かったです。新しい友達をつくることができました。(金行壮真 小 6)

初めてスタッフをしました。練習は順調だったのに、本番はお米の研ぎ方がわからない子がいたり、どうやってお米を入れるのかわからない子がいて、説明が難しかったです。レクは「答えを教えて」と言ってくる人もいて疲れました。(青木ゆめ 小 4)

○×クイズで仲良くできていて、テーマを達成したと思いました。私が一番楽しかったのは準備でした。みんなで話し合って考え、買い出しではたくさんの野菜など買って、わくわくしました。打ち合わせ通り、それぞれの係りができたので、次に活かせたらいいな。
(岡光美宙 小 6)

よかったのは、買い出しに行ったことです。150 人分の買い出しはなかなかありません。こんなにいるのかとおどろきました。○×クイズでは、みんなが楽しそうに答えを考えているところを見てうれしかったです。参加者がうれしそうに帰っていったので、またスタッフをしたいです。(大野雅躍 小 6)

受つけで名ふだくばりとカレー調理とアンケート回収をやりました。1 番楽しかったのはあめや景品を買いに行ったことです。
(若松芽衣 小 5)

おとなサポーターより

初参加で初スタッフ。初めは戸惑いましたが、準備さえ手伝えば、あとは子どもスタッフがどんどん進めてくれました。慣れた様子で包丁の使い方などを小さな子に教える姿に感心。我が子も喜んでもらう楽しさを感じたようで、「あれがみんなにウケた！」と話してくれました。とても貴重な１日になりました。

（大野知恵子）

色々経験させたい、と人見知りの姪を誘って参加し、はや3回目。私や娘の後ろにいた姪が、回を重ねるうち、他校の子どもや YYY スタッフと打ち解けるようになりました。「今回スタッフをやりたい」と娘が言うと姪も一緒にやることに。ミーティングや準備に積極的に参加する姿にビックリでした。　（青木光子）

スタッフ 3 回目ともなると、「ちゃんとせんとぉ」と子どもに一喝、手前わたしもしっかりせんといけん。前日の買い出し、男子 2 人、女子 1 人と出発。150 人分の買い物は大量。手分けして意外と早く終わったと思ったら、肉を取りに行くのを忘れるハプニング！

当日はカレー担当、包丁の使い方が恐ろしい子に別のスタッフがやさしく教える。私にはない教え方、見習わんといけんなー。終わってみれば子どもたちの達成感の顔。案外うまくいくんだなーと私も達成感。どっと疲れたぁ～　（金行真理子）

初めてスタッフとして参加しました。子ども会議でちょっとずつちょっとずつ決まっていくことにビックリ！こうやって1つの活動ができるんだ～と思いました。当日は、娘も張り切って役割をやりきり、満足そうな顔。何より参加者の皆さんがやる気で、笑顔で楽しくできたので良かったです。　（若松百合子）

何回も集まり準備をした。当日は、みんなが真剣に薪割したり野菜を切ったり。やる気モード全開だった。大鍋 3 つ飯ごう 30 個分のカレーはペロリとお腹の中へ。スタッフや楽しそうな参加者の顔を見て、「やってよかったー」。スタッフのコメントを聞いて、「みんなも同じ思いだった！」とさらに嬉しかった。また、いろいろ一緒に企画しよう！チャレンジキッズ集まれ！(くぼ)

ついに降り立ったニューヨーク！機内でよく眠れなかった私、トイレの前で他のみんなをぼーっと待っていると、同じく誰かを待っている様子の男性と目が合いました。彼は小さく流れてくる音楽に、「The music is good」と言っていきなり踊りだしました。突然のことで笑いながら Yes と言うしかできませんでした。さすが NY！そのおかげもあってか、段々と頭が冴え、空港から市内までのタクシーでは寝ずに町並みを撮ることができました。

午前は日本語ガイド付きの観光ツアー。エンパイアステートビル、凱旋門のようなワシントン・スクエアパーク入口など、ニューヨークの主要な観光スポットを巡りました。印象的だったのは、リバティ島とツインタワー跡地。リバティ島へはフェリーで行きました。小さかった女神像が徐々に大きくなるにつれ、ワクワク感が高まります。島をぐるっと一周し、正面から巨大な女神像を見上げて写真を 1 枚。下からは見えませんでしたが女神像の足には壊された足かせが付いていて、これから始まる自由を象徴しているそうです。また、金属が錆びて女神像が緑色になっていることも初めて知りました。あとから聞いた話では、内部には 300 段くらいのらせん階段があり、冠のところまで登れるのだそう。ただし、要予約で、半年待ちだとか。

それから同時多発テロが起こったツインタワー跡地へ。亡くなった人々の名を刻んだ巨大な慰霊碑があり、こんなにたくさんの人が犠牲になったのか…と心が痛みました。今でも遺族や世界中から多くの人が慰霊に訪れます。世界のトップをひた走るアメリカですが、この大事件を風化させまいとする姿勢は日本と通ずるものがあり、また、死を悼み、命を貴ぶ心は万国共通！と改めて感じました。

午後からはハイラインへ。高 2 の英語教科書で取り上げられている場所です。引率の M 先生は大興奮で、シャッターを切る手が止まらない！といった

様子。教科書だけではイマイチその魅力が理解できずにいた私ですが、大自然のすばらしい眺めと、癒しの空間を目の当たりにして、人気を博している理由がよく分かりました。終始少女のようにはしゃいでいる先生を見るのが楽しくもありました。

その後、地下鉄でアメリカ自然史博物館へ。システムが特殊で、入館するのに手間取りました。というのも入館料は、博物館に寄付という形で、金額は自分で決めます。そんな経営でよく維持できるなぁと、アメリカ人の善意に感心しました。最初に行ったのは、動物のはく製が展示してあるブース。私は額縁から鹿が頭を出しているようなものを想像していたのですが、初めて見るはく製は、今にも動き出しそうな佇まいで、動物園に来ているかのよう。次に向かった海の生き物ブースでは、壁から天井までが魚や貝類、海藻の模型で埋め尽くされており、微生物や巨大なクラゲ、ダイオウイカなどの模型の

美しさに心が躍りました。特にクジラはエンデヴァーくらいの巨大さで、こんなものが海の中に潜んでいるのかと思うと、改めて海の広さ、底知れなさが感じられ、宇宙と少し通ずるところがあるように思いました。恐竜展では化石を見ました。どれも大き

いのですが、草食恐竜は特に大きく、ティラノサウルスが霞んで見えるほど。何かの図鑑で草食恐竜は体を大きく進化させることで肉食恐竜から逃れたと読んだ覚えがあります。なるほど、これぐらい差があれば確かに食べられないかも。また、肉食恐竜の歯の化石を触ってみたのですが、思いの外鋭利ではなく、これだと何かを食いちぎるときは顎の力で、ということになり、噛まれた方は痛かっただろうな…と昔の恐竜たちに思いを馳せました。

その日の夕食は外に取りに出かけ、リーズナブル

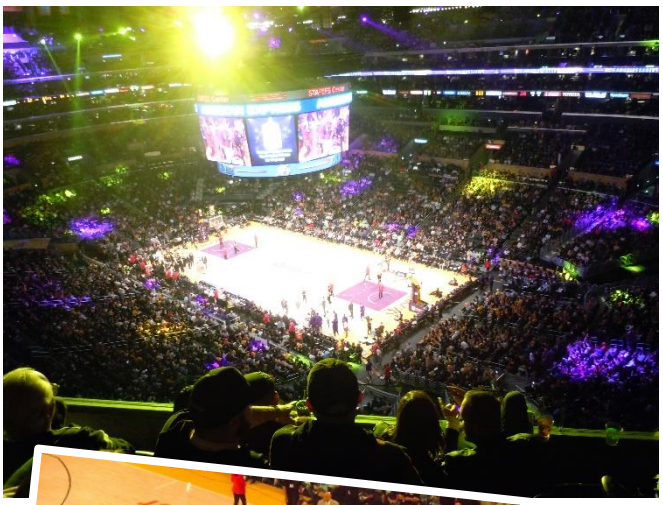
そうなピザ屋さんへ。私はサラダピザを注文しましたが、会計のときに注文した覚えのないサラミピザがのっていて、あれ？と焦り思考停止になりそうでした。しかし、このままではこの代金を請求されてしまう！と思った金欠の私は、勇気を出して、「これは頼んでいません。」と断ることができ、余分なお金を払わずに済みました。サラダピザは持ち上げられないぐらい大きく、具だくさんで、とても美味しかったです。

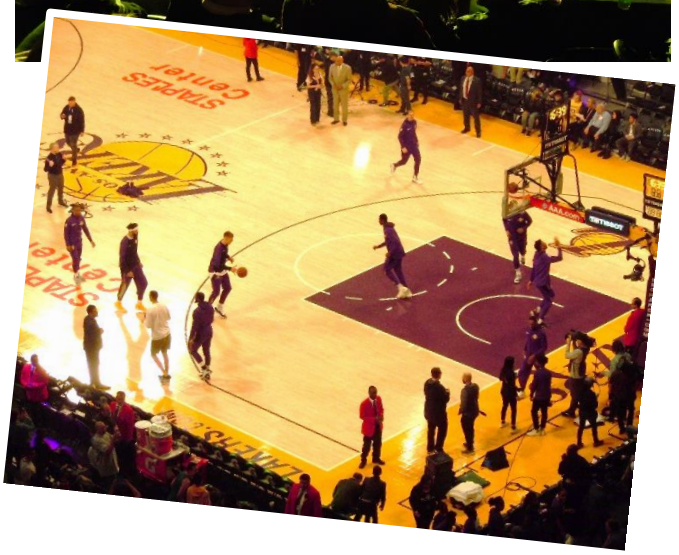
その夜ふと目が覚めると、何かの音が鳴り響いていました。目覚まし？ううん、部屋全体に響き渡っていて、友達も何やら慌てている様子。廊下でも同じ音が鳴っているので火災報知器のサイレンではないか、と言うのです。とりあえずパスポートなど貴重品と上着だけ持って非常階段へ。私たちの部屋は 13 階。他にも避難する人が殺到し非常階段は大混雑。10 階くらいまで下りると、寝ぼけ半分だった頭が冴えてきました。本当に火事だったらどうしよう？と不安な気持ちがこみ上げてきたところで、報知器の誤作動だったことが判明。安堵しつつも、日本だったらすぐに訂正の放送がかかるのに、と思いました。結局放送はなく、日本では当たり前と思っていることが実は質の高いサービスであることに気付かされ、日本の国柄を誇りに思いました。

翌朝、今度は電話のベルで目が覚めました。どうやら私たちは寝坊してしまったようです。慌ててロビーへ下りると、昨夜の騒動の話題に。私たちも避難したことを話すと、友達が衝撃の事実を告白。なんと、あのけたたましい音の中、私はぐっすり眠っていたどころか、揺すっても叩いても起きなかったと言うのです。自分でも驚きでしたが、本当にサイレンが間違いで良かったと思いました。

ニューヨーク滞在はたった 1 日でしたが、密度の高い時間を過ごしました。このアメリカ研修も残りわずか。初めは早く帰りたいと思っていたのに、帰りたくないと思うようになるとは、私も少しは成長できたということでしょうか？

カリフォルニアまで戻り、NBA リーグというプロバスケットの試合を観に行きました。ロサンゼルスレイカーズ対サクラメントキングス戦。正直興味がないのに…と思っていましたが、ふたを開けてみると本当に面白く、いつの間にかカープの試合を見るように見入っていました。観戦したのはどうやらレイカーズのホームスタジアムらしく、応援はレイ





カーズより。私は名前にサクラ(桜)とあることからこっそりサクラメントキングスを応援しました。時間の関係で最後まで観戦できませんでしたが、106 対 114 でサクラメントキングスが負けてしまったそう。しかし、私は心の中で拍手を送りました。あの完全アウェーの中よく頑張った！

12 日目、この日は昼までジェシカと行動、昼からは翌日の成果発表プレゼンの準備。訪問先や CdM の先生方への Thank you カードも書き上げ、準備は万全！と一息ついていると、友達がホストファミリーに向けてプレゼントの用意をしていました。そうか、もうお別れなんだと思うと、私も何か恩返しをしなくては！と、折り紙でメッセージカードを作ることに。一つはジェシカ、もう一つは家族のみんなに宛てて。完璧な英語ではありませんが、気持ちは十分伝わるはず。それはこの研修で学んだこと。コミュニケーションで重要なのは、言葉使いの正確さではなく、心と心のやり取りである！

ついに迎えた 13 日目、最後の一日。私たちは再び、CdM の生徒の前に立ちました。前日作ったばかりで、リハーサルもしていなかったプレゼンは、スライドのタイミングを間違ったり、原稿を見てしまったり…上手くできませんでしたが、伝えたいことは伝わったようで生徒たちは頷きながら耳を傾けてくれました。そんな彼らの反応が嬉しく、勇気も与えられ、話したいことを全て話し切ることができました。日本に帰ったら CdM の生徒を見習い、授業や講演を聞こうと思いました。

その後はフェアウェルパーティー(送別会)。バイキング形式の料理を頂いている間に、ホストファミリーが次々と到着。会場は英語で満ちていきました。最初は悪夢のように思えたこの空間を、あたたかく感じている自分がそこにいました。

校長先生からまさかのお達しがあり、以前やった日本紹介のプレゼンをやれというのです。内容をすっかり忘れており、しかも最終プレゼンも覚えきっていません。仕方がない、もう原稿を見ながら発表させて頂こう、と腹を決めました。

2 度目のプレゼンは、中盤からほとんど原稿を見ずに話すことができました。すると、ホストファミリーの表情が見え、真剣に聞いてくれていることがひしひしと伝わってきました。続く最終プレゼン。私の心にあるのはこの 2 週間の成果を伝えたい！という想いだけ。ホストファミリーと過ごした時間をとても大切に思っていること、この研修に挑戦して本当に良かったと思っていること。それを伝えることが何よりの感謝になる、と必死に話しました。席に戻るとジェシカがよかったよ！と満面の笑みで迎えてくれました。

帰宅後、ジェシカと人生初のパックに挑戦。日本語-英語字幕版の「となりのトトロ」を鑑賞した後、

お母さんからイースターの可愛いお菓子ボックス、ジェシカからアメリカでおしゃれと名高い店のスウェッターとキャップのプレゼントが。すごく感激して、私も手紙を渡しました。すると涙を流して喜んでくれ、「ずっと保存しておくよ。」と言ってくれました。私はこの家族にとって邪魔な存在になっていないか気にして過ごしていましたが、無用な心配だったようです。ハグを交わし、いつかまたこの家族のもとを訪れたい！その時までに、もっと英語を話せるようになりたい！と強く思いました。

この研修の一番大きな収穫は「言語を学ぶこと」についての認識が変わったことです。実際に英語を使って生活してみて、言語を学ぶ意義は「知らなかった世界、人と出会い、自分が進化する！」ことだと気づかされました。今回の出会いは、私にとってどれも、かけがえのないものばかりで、英語を学んでいて本当によかった！と思うと同時に、他の言語も学んでみたい気分にさせました。きっと新しい出会いを連れてきてくれ、人生をより豊かなものに「生きる」歓びへと誘ってくれるのです。また、私に強い意志と勉強に向かうモチベーションを与えてくれました。学んだ先にこれほど素敵な未来が待っているのなら、受験生としての 1 年がどんなに辛くとも乗り越えられる、そう確信しています。

■発行日：2019 年 6 月 25 日（毎月 1 回発行）■発行責任者：米本美千恵
■発行元：特定非営利活動法人 呉こどもNPO センターYYY 〒737-0051 呉市中央 3 丁目 11-12PANビル3F
■連絡：0823-24-5646■WEB：http://kure-yyy.org